

# What's New?

No.294

(公財)東京市町村自治調査会は、東京都全市町村の総意によって設立され、多摩・島しょ地域における広域的課題や共通課題の調査研究、情報提供、多摩地域の広域的市民ネットワーク活動に対する支援などを行っています。

## シリーズ 島しょ地域の魅力を紹介!

### 第1回 大島町

自治調査会では、多摩・島しょ地域市町村の広域的かつ共通的な行財政課題などの調査・研究を行うとともに、各市町村の協力のもと、多摩・島しょ地域の行政の取り組みや産業、文化、歴史などに関する情報の収集、分析を行っています。

日頃の業務の中で、「多摩地域」の職員と「島しょ地域」の職員が接する機会は少ないと思います。そこで、両地域の相互理解と交流がこれまで以上に拡大することを目的に、自治調査会が行っている情報収集や取材などに基づき、本紙面上で順次紹介していきます。



▲大島町で花開く椿

今回のシリーズでは、まず島しょ地域に注目し、まちの取り組みや観光資源、役場の概要、職員の方へのインタビューなどを9回に分けて紹介します。

職員の方がそれぞれの市町村を知り、都内の市町村の仲間として身近に感じていただくきっかけになれば幸いです。

※「シリーズ 島しょ地域の魅力を紹介!」は、機関紙What's New?及び自治調査会ホームページで不定期に発表していきます。

#### 東京島しょ地域の概要

東京都の島しょ地域は、都心から太平洋上約120kmから約2,000kmにわたり点在する大小200余の島々からなり、伊豆諸島と小笠原諸島に分かれています。

面積は約405km<sup>2</sup>で、大島町、利島村、新島村、神津島村、三宅村、御蔵島村、八丈町、青ヶ島村、小笠原村の9町村に約28,000人(平成24年1月1日現在)が住んでいます。気候は海洋性や亜熱帯性など変化に富んでおり、急峻な火山地形に動植物の固有種が多く見られ、富士箱根伊豆国立公園、小笠原国立公園に指定されています。

長年にわたり離島の振興が図られてきましたが、海空路の充実、医療、産業の振興などが課題となっています。



～人と人、自然とひととが共生したみどり豊かな快適環境のまち～

# 大島町



IZU-OSHIMA

<http://www.town.oshima.tokyo.jp/index.html>

## 島の見所①(ジオパーク)

平成22年に東京都で初めて日本ジオパークに認定された伊豆大島。島には黒く固まった溶岩の流れや、大きな火口、黒い砂漠など、生きている火山を感じるスポットが点在しています。

伊豆大島ジオパークには様々なジオサイト(地質、地形、歴史などそのジオパークを特色づける見学場所や拠点)があります。伊豆大島ジオパークホームページでは、「三原山とその周辺」と「海岸沿いとその周辺」に分けて合計65か所のジオサイトとともに、モデルコースも紹介しています。

特に、活火山であり、噴火と再生を繰り返す三原山(標高758m)は、火山が作り上げた景色と、噴火の中で生きる生物、再生する植物などを観察できるジオサイトとして人気です。また、三原山の火口のすぐ近くまで行けることも伊豆大島ジオパークの魅力の一つです。

(一社)大島観光協会では、独自のコース設定の手伝いをしています。また、大島ネイチャーガイドクラブでは、大島町認定ガイドがジオサイトツアーを行っており、ジオパークの知識を高めながらその魅力を目の当たりにすることも可能です。

### 伊豆大島ジオパーク公式サイト

<http://www.izu-oshima.or.jp/geopark/>

### 大島ネイチャーガイドクラブ ホームページ

<http://www.izu-oshima.or.jp/onc/>



▲山頂口展望台から見た三原山



(写真上)  
昭和61年(1986年)  
三原山山頂噴火の  
様子  
(写真左)  
火口南展望所から  
見る三原山火口内

## 三原山の噴火で『ゴジラ』も生まれた!

三原山山頂口から噴火口へ向かう途中、『ゴジラ』の形をした溶岩があります。

『ゴジラ』(東宝・特撮怪獣映画)の映画の中では、『ゴジラ』が三原山の火口からよみがえるシーンが描かれたこともあります。



## 日本で唯一の砂漠!「裏砂漠」

国土地理院作製の地図において日本で唯一「砂漠」と表記されている場所です。

三原山の東側にあり、幾度となく繰り返された噴火の細かい溶岩の粒や火山灰でできた砂漠です。

歩くと、「シャリシャリ」と音がし、噴火の痕跡を肌で感じるができます。

あたり一面真っ黒な裏砂漠に立つと、まったく違う時代にタイムスリップしたような、不思議な感覚になります。



## シリーズ 島しょ地域の魅力を紹介!

## 第1回〈大島町〉

## 島の概要(平成24年4月1日現在)

- \*位置 都心から南に約120kmの海上に位置する伊豆諸島最大の島
- \*面積 91.06Km<sup>2</sup>(周囲52km)
- \*人口 8,343名(世帯数 4,704世帯)
- \*歴史 昭和30年、島内の6村が合併し大島町となる。昭和61年11月に三原山の噴火により全島民が避難を余儀なくされるが、1か月後には帰島。平成22年には、日本ジオパークに認定される。



(写真上)  
伝統衣装を身につけた  
あんこさん  
(写真右)  
椿まつりオープニング  
セレモニー、  
江戸みこしと  
あんこパレード



## ※特別記念イベント ジオパーク・ロゲイニング大会

(平成25年3月2日(土))

地図、コンパスを使って、ジオパークのスポットや伊豆大島の歴史・文化資産に設置されたチェックポイントをできるだけ多く制限時間内に回り、得られた点数を競います。第58回椿まつり特別記念イベントとして、初めて実施されます。

## ※その他

椿の花びら染め体験教室、あんこさんによる入出港時の歓送迎、夜まつり(ダンス、御神火太鼓の披露)など、多くのイベントが行われています。



椿油

椿油はヤブツバキの種子から採れる植物油で、化粧品や食用品として利用されています。乾燥肌、日焼け後の肌、髪の毛のトリートメントに効果があるとされるだけでなく、健康油として食用としても利用されています。

## \*アクセス(船または飛行機)

- ・航路 竹芝桟橋-大島<東海汽船株式会社>  
「高速ジェット船」(約1時間45分)  
「大型客船」(約8時間)
- ・空路 調布飛行場-大島<新中央航空株式会社>(約35分)  
羽田空港-大島<ANA>(約30分)

## 島の見所②(伊豆大島椿まつり)

大島町では、大島町のいたるところに咲く椿にちなんで、椿まつりを昭和31年から毎年1月から3月にかけて行っています。伊豆大島全体が、椿まつりのムード一色になり、約300万本の椿が多くの観光客を出迎えます。

## ※第58回伊豆大島椿まつり 概要 ※

開催期間 平成25年1月27日(日)~3月24日(日)

メイン会場となる椿プラザ(大島公園特設会場)では、大島の特産品販売ほか、メインステージでは「大島民謡」などの郷土芸能などが楽しめます。また、椿プラザに隣接する植物園・椿園には約450品種3,700本の園芸種の椿が咲き誇ります。

## ※椿の女王コンテスト

(平成25年2月3日(日)午前10時~/椿プラザ)

伊豆大島の伝統衣装を着て、あんこさんになったコンテスト参加者から、「椿の女王」を選出します。島外からの参加も可能で、椿の女王は、1年間、島内外で行う各種イベントに参加し、大島町をPRします。

## ※あんこ衣装の無料貸し出し

(期間中毎日午前9時~/午後3時~/椿プラザ)

あんこ衣装を着て、あんこさんになった気分で、写真撮影や椿散策をすることができます。

「あんこ」とは島ことばで「姉・年上の女性」のことで、お姉さんを意味する「姉っこ」がなまったものだと言われています。頭に手ぬぐいをかぶり、筒袖の紺緋の着物を、前垂れで着付けます。都はるみさんの名曲「あんこ椿は恋の花」でも有名です。

町職員、金融機関等の職員が、期間中にあんこさんの衣装で仕事をし、まつりムードを演出します。



※椿まつりについての詳細は、第58回 伊豆大島 椿まつり(東海汽船株式会社)ホームページをご覧ください。  
<http://tokaikisen-tsubaki.jp/>

## 大島町役場(平成24年4月1日現在)

所在地 〒100-0101

東京都大島町元町1丁目1番14号

町長 川島 理史(かわしま まさふみ)

職員数 186人

財政 決算収支(普通会計)(平成23年度)

歳入:7,341百万円 歳出:7,203百万円

主産業 農業、漁業

目標 (3つの取り組み)

- (1) **プラスワン** 人口や観光客の減少、農漁業の衰退に、何としても歯止めをかけ、一步一步前進する。
- (2) **見える化** スマートアイランドをめざし、エネルギーや防災を始め、町政のあらゆる分野が見えるようにする。
- (3) **協働** 町づくりの土台となる町民・議会・行政の責任を明らかにし、それぞれの役割担う。



▲川島理史町長



ピッコウ

辛みの強い島唐辛子で作ったたれに、海で採れた白身魚を漬けると艶やかなべっこう色になることから、べっこうと呼ばれています。

商店などでは、べっこうのたれも売られているので、家庭で簡単に郷土料理が食べられます。新鮮な白身魚のピリッと辛い島唐辛子の味わいは、やみつきになります!

町の取り組み  
Pick Up

## スポーツアイランド 伊豆大島を目指して

大島町では、スポーツアイランドを目指し、各種マラソン大会を開催しています。海沿いの道や樫のトンネルなど、伊豆大島の自然を身近に感じながら、アップダウンなど変化に富んだ島内周回コースで参加者を楽しませてくれます。

樫まつり期間中には、カメラマラソン大会(平成25年2月17日(日))、伊豆大島ウルトラランニング・伊豆大島一周マラソン(平成25年3月23日(土))を開催します。

島外からの参加者も多く、自然、健康、観光を融合させたイベントを開催することで、スポーツアイランドとしての魅力を向上させています。



▲カメラマラソン大会

## 役場職員インタビュー

大島町観光商工課振興係  
関野 光伸 主事

平成13年4月入庁。現在は観光商工課で町の観光やイベントなどに携わっている

## 大島町は関野さんにとってどのようなまちですか?

大島町は、地域のつながりが昔ながらに続き、自然環境に恵まれた住みやすいまちです。大島町で生まれ育ったので、小さいころから目の前に海や山がある環境が当たり前でしたが、観光業務に携わってからは、島内の観光資源や自然を見直し、島外から見た大島町の魅力を再発見することができるようになりました。

## 現在の仕事の目標はなんですか?

樫まつりなどのイベントを通じて、多くのお客様に来ていただけるよう、夢や希望のある観光振興を目指しています。また、イベントなどを通じて、これからもたくさんの方のつながりを築いていきたいと思っています。

## 大島町を訪れる方へメッセージをお願いします!

大島町は春夏秋冬で四季折々の景色や生き物などが楽しめます。樫まつりでは島内のいたる所であんこさんに出会えます。サンセットパームラインのあかはげ丘から見る夕日は、海と夕日が一体となり格別です!

平成25年1月公開の映画「つやのよる ある愛に関わった、女たちの物語」では、物語の舞台となっています。映画のロケ地となった「裏砂漠」は日本で唯一砂漠という地名が付いている場所で、ぜひ一度足を運んでもらいたいです。皆さんの来島をお待ちしています!

## 多摩交流センターの紹介

「多摩東京移管百周年記念事業-TAMAらいふ21」の成果を継承し、多摩地域での住民交流の一層の推進を図るため、平成6年7月1日に、東京市町村自治調査会内に多摩交流センターを設置しました。

多摩交流センターは、「TAMAらいふ21」の活動を通じて形成された市民ネットワーク活動の推進と広域的な市民の交流を図るため、次の事業を行っています。



会議室利用登録団体(英語を楽しむ会)の活動

### 1. 広域的な市民ネットワーク活動の支援

多摩地域で広域的な市民活動を行う市民団体へ、「事業助成」と「活動支援」による支援を行っています。

### 2. 活動と交流の場の提供

登録団体に多摩交流センターの会議室、備品の貸出と印刷機・コピー機などを利用できるようにしています。



会議室利用登録団体(源氏物語を読む会)の活動

### 3. 情報の発信・収集

多摩交流センター事業の紹介、助成団体のイベント情報、TAMA市民塾の塾生募集などを機関紙「多摩のかけはし」で発信しています。多摩30市町村の広報紙、多摩のタウン誌(紙)などを収集し、「TAMAらいふ21」の記録や関連資料とともに市民交流・資料室で公開しています。



外観



市民交流・資料室

### 4. 自主事業・共催事業の実施

「TAMA市民塾」、「多摩の歴史講座」、「TAMAとことん討論会」「多摩発・遠隔生涯学習講座」などを実施しています。



多摩発・遠隔生涯学習講座の様子

## (公財)東京市町村自治調査会 多摩交流センター



〒183-0056 東京都府中市寿町1-5-1  
府中駅北第2庁舎6階  
TEL 042(335)0100  
FAX 042(335)0127  
E-mail tama001@tama-100.or.jp  
ホームページ <http://www.tama-100.or.jp/>

#### ※電車をご利用の場合

- ・京王線「府中駅」北口から徒歩約3分
- ・JR南武線、武蔵野線「府中本町駅」から徒歩約15分

#### ※バスをご利用の場合

- ・JR中央線「武蔵小金井駅」南口から、京王バス「府中駅行き」に乗り、「府中駅」下車
- ・JR中央線「国分寺駅」南口から、京王バス「府中駅行き」に乗り、「府中駅」または「農業高校」下車

※駐車場はありませんので、車での来所はご遠慮ください。

## 〈多摩交流センター 案内図〉

府中駅 北口から徒歩約3分



# とっておき特産物

## 第21回 三宅村



### パッションフルーツ

三宅島特産の一つであるパッションフルーツは、火山ガスの影響を受けにくく、育てやすいため、2000年の噴火災害後から栽培されました。甘い香りとさわやかな酸味が特徴の夏のフルーツ。今年の夏お試しになってみてはいかがでしょうか。

### あしたば 明日葉

あしたば  
「明日葉」の呼び名は、今日摘んでも明日には新しい芽を出すことに由来しています。伊豆諸島ではどこでも自生・栽培されている健康野菜です。独特の苦味を持つこの野菜は、天ぷら、おひたしなど様々な料理法が存在し、島民の日々の食卓を彩っています。



三宅村役場観光産業課  
☎04994-5-0992

発行 (公財) 東京市町村自治調査会  
責任者 桑原正志  
〒183-0052 東京都府中市新町2-77-1  
東京自治会館4F  
TEL 042(382)0068  
ホームページ <http://www.tama-100.or.jp/>